

デジタルアーツ株式会社
「インターネット利用に関する調査結果2007」

～インターネット上の不安・危険の認識は深まるが、フィルタリング製品の利用は未だ不十分～
 2007.3.15

目次

- 1. 調査概要 (P.1)
- 2. 全体傾向 (P.2)
- 3. インターネット利用に関する不安・危険要素について (P.3)
- 4. フィルタリング認知および利用状況について (P.7)

1. 調査概要

調査対象	インターネットを利用する25歳以上の男女(有効回答者内訳参照)
調査方法	インターネット上の特設サイトによるアンケート調査
調査期間	2006年12月16日～18日
有効回答者数	927人
属性(内訳)	25～49歳既婚男性(小・中学生 子どもあり) 309人 25～49歳既婚女性(小・中学生 子どもあり) 309人 25～49歳未婚女性 309人
全体年齢層	25～29歳 12.0% 30～34歳 16.9% 35～39歳 24.0% 40～44歳 29.5% 45～49歳 17.3%
地域分布	北海道 4.9%、東北 4.9%、関東 42.0%、中部 14.8%、 近畿 17.7%、中国 5.7%、四国 2.5%、九州 6.9%

*数値データに付きましては、小数点2位以下を四捨五入を行っているために、積算すると100%とならない場合がございます。

2. 全体傾向

■ インターネット利用への不安・危険要素の最上位は「個人情報の漏えい」

本調査では、回答者本人あるいは回答者の家族にとって「インターネット利用の不安・危険要素」として最も回答が多かったのは、「個人情報の漏えい」です。2005年4月からの個人情報保護法の施行以来、インターネット利用者の意識の中にも、個人情報に対する関心が高まっていることが感じられる回答でした。

またその一方で、質問を“子どもに対しての「インターネット利用の不安・危険要素」として限定した場合の回答では、「アダルト情報や犯罪、出会い系など違法・有害サイトへの接触」を挙げる回答が最も多くなりました。最近、インターネット上の情報を基にして、子どもが事件・トラブルの被害者・加害者となるケースが増えていることから、インターネット上の有害情報に子どもが接触することに対して「不安・危険」の焦点が当てられていると考えられます。

インターネットにおける不安要因

自分にとっての不安・危険要素：個人情報漏えい・ウイルス・フィッシングなど詐欺

子どもに対する不安・危険要素：アダルト情報や犯罪、出会い系など違法・有害サイトへの接触

■ 有害なサイトの最上位は、「暴力描写」

回答者にとって不安・危険要素を感じる要素をカテゴリ分類して複数回答を求めた結果、「暴力描写」や「犯罪性の高い情報」に対する不安や危険が最上位になりました。

多くの回答者が、内面(精神面)への影響が懸念される「暴力描写」や、将来の行動に影響を与えかねない「犯罪・凶器などの情報」について、より強く不安視・危険視していると考えられます。

有害とされるサイトの中で、より危惧されているカテゴリ

暴力描写 犯罪・凶器などの情報 違法コピー販売・不正技術 ポルノ・アダルト関連 出会い系

■ 自分や家族または知人がフィッシング詐欺やインターネット上での犯罪行為に遭遇、回答者の15%が経験あり

インターネット上の不安・危険要素のとして多くの回答者が挙げている、「フィッシング詐欺」や「インターネット上での犯罪行為」の被害経験については、回答者の7%が「経験している」ことが明らかになりました。また、「自分はないが家族や知人であった人がある」という回答(8%)を加えると、「フィッシング詐欺」や「インターネット上での犯罪行為」が、非常に身近な不安・危険要素となっていると考えられます。

■ 有害なサイトと犯罪には、関係がある 97%

不安・危険を感じる有害なサイトと、犯罪との関係性についての質問に対し、「大きな関係がある」という回答は37%に、「内容によってはある」という回答は60%になりました。これらを合計すると、97%の回答者が有害サイトと犯罪の関係を認識しているという結果になります。

有害サイトと犯罪の関係	
大きな関係がある	37%
内容によってはある	60%
あまりあると思えない	2%
ない	1%

■ 「好ましくないサイトに不用意にアクセスしないようにするソフト」を知っている人 53% フィルタリングソフトを知っている人 19.4%

「有害なサイト」と「犯罪」の関連性についての理解が進み、対策用のソフトの存在を認識している状況がある一方で、「フィルタリングソフト」という製品について理解している人は、19.4%にとどまっていることが明らかになりました。さらに、自宅でフィルタリングソフトを利用しているのは、全体の4.6%だという回答結果になりました。

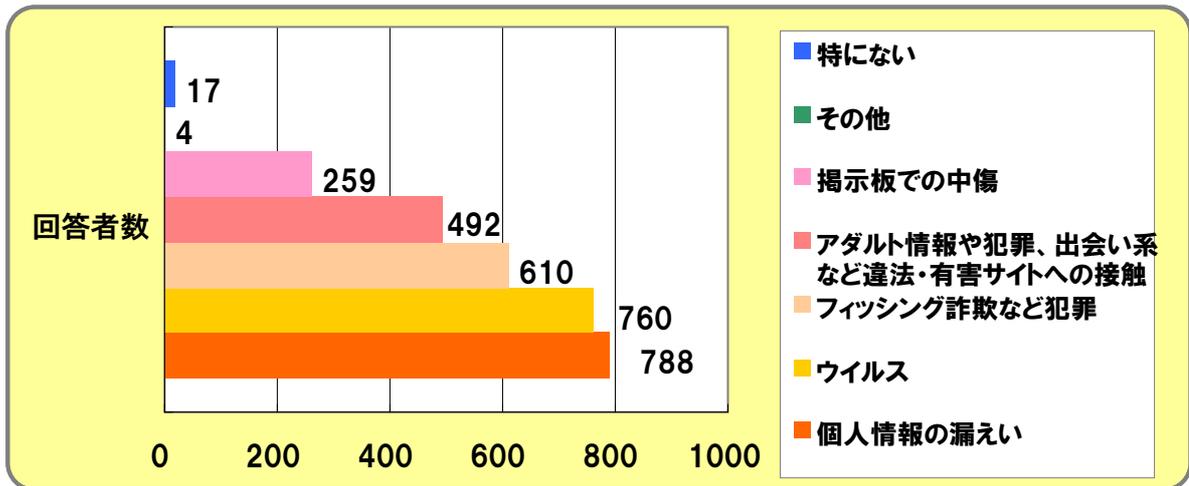
3. インターネット利用に関する不安・危険要素について (1) (2)

3- (1) 「ご自身にとって、インターネットでの不安や危険だと思う要素はなんですか？」

回答者の85%が「個人情報の漏えい」に不安や危険を感じるとしています。

「個人情報の漏えい」への不安が、ウイルスに対する不安以上に選択されていることも特徴のひとつです。

- 複数回答
- 全員への質問(有効回答927人)
- 85%が「個人情報の漏えい」を選択

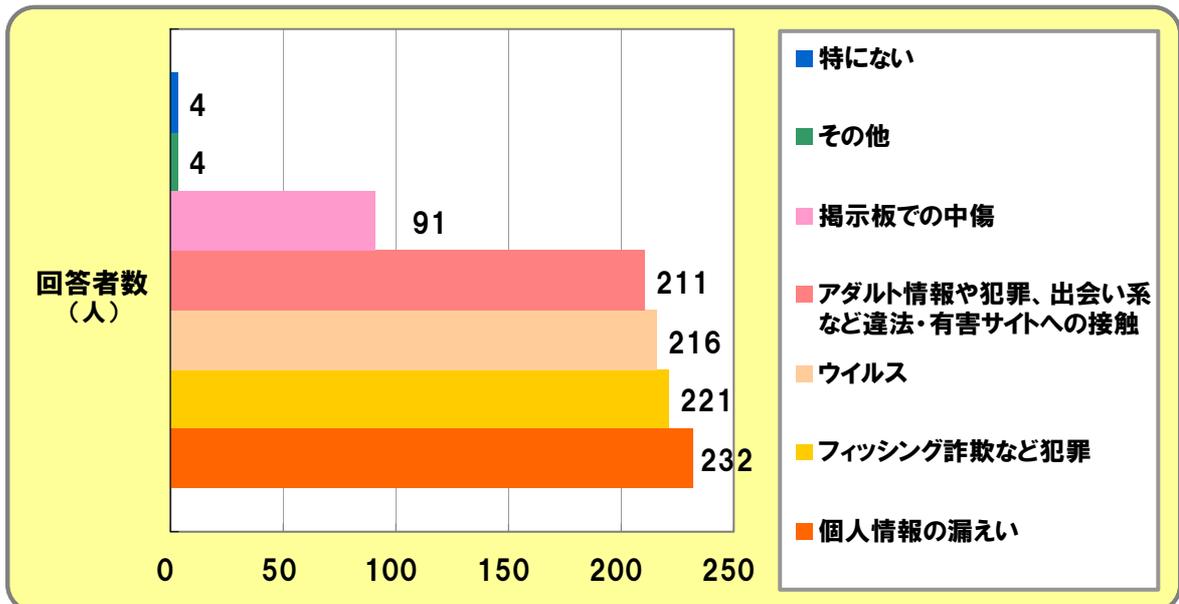


3- (2) 「あなたの家族にとって、インターネットでの不安や危険だと思う要素はなんですか？」

家族のインターネット利用に対する不安・危険要素について既婚男性に聞きました。

その結果、個人情報の漏えい、フィッシング詐欺などの犯罪、アダルト情報や犯罪ばかりでなく、出会い系など違法・有害サイトへの接触等、広範にわたって不安視・危険視している傾向が明らかになりました。

- 複数回答
- 既婚・子どももありの男性への質問(有効回答309人)
- 75%が「個人情報の漏えい」を選択

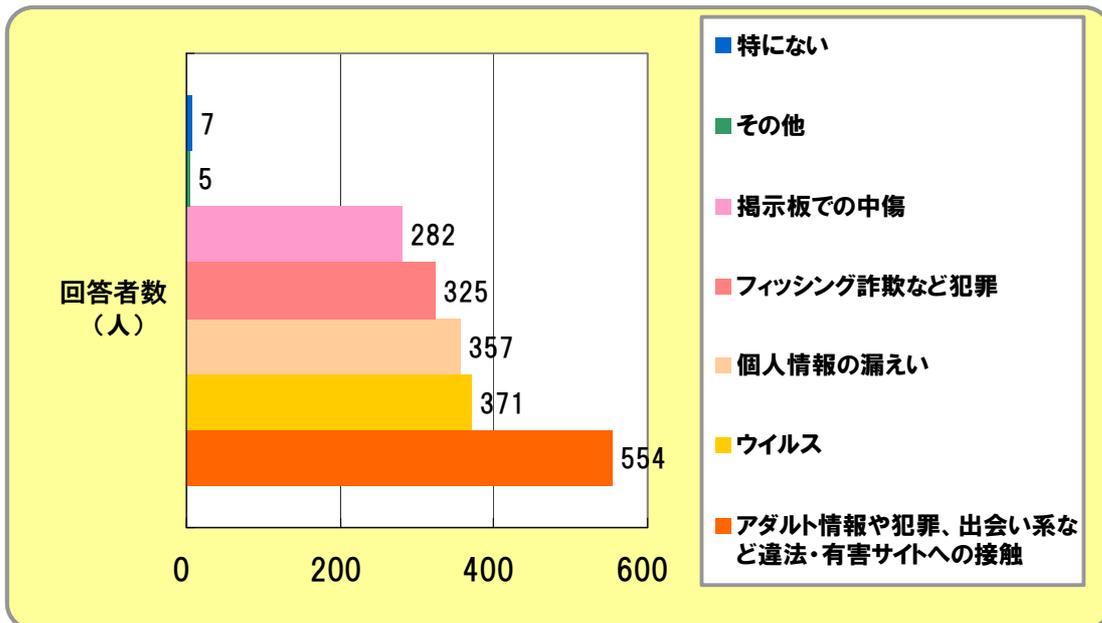


3. インターネット利用に関する不安・危険要素について (3) (4)

3- (3) 「お子さまにとって、インターネットでの不安や危険だと思う要素はなんですか？」

子どものインターネット利用に対する不安要素を質問した場合、自身の不安要素に対する回答とは傾向が異なり、最も多い回答は「アダルト情報や犯罪、出会い系など違法・有害サイトへの接続」となります。最近、インターネット上の情報を基にして、子どもが事件・トラブルの被害者・加害者となるケースが増えていることから、子どもに対する危険・不安要素として「有害情報への接触」に焦点が当てられていると考えられます。

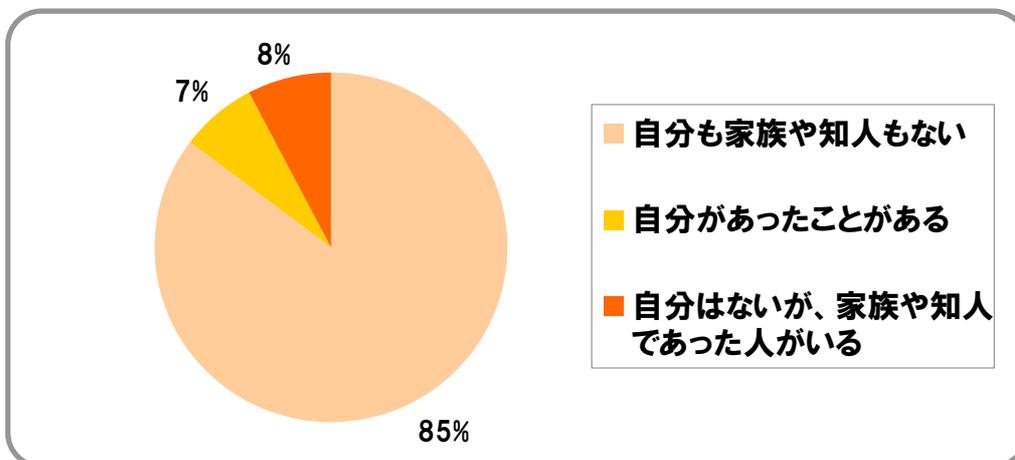
- 複数回答
- 既婚・子どもありの男性と女性への質問(有効回答618人)
- 回答者の89.6%がアダルト情報や犯罪、出会い系などの違法・有害サイトへの接触を選択



3- (4) 「フィッシング詐欺やインターネット上での犯罪行為にあったことはありますか？」

実際にフィッシング詐欺やインターネット上での犯罪行為にあった経験の有無についての回答です。インターネット利用者全体の比率として換算すると、無視できない比率だといえます。

- 全員への質問(有効回答927人)
- 全体の7%が被害に遭遇していると回答
- 自分以外にも身近な家族や身近な知人で被害経験のある人 8%
- 回答者の15%が、被害経験者あるいは被害を経験した家族、知人がいる

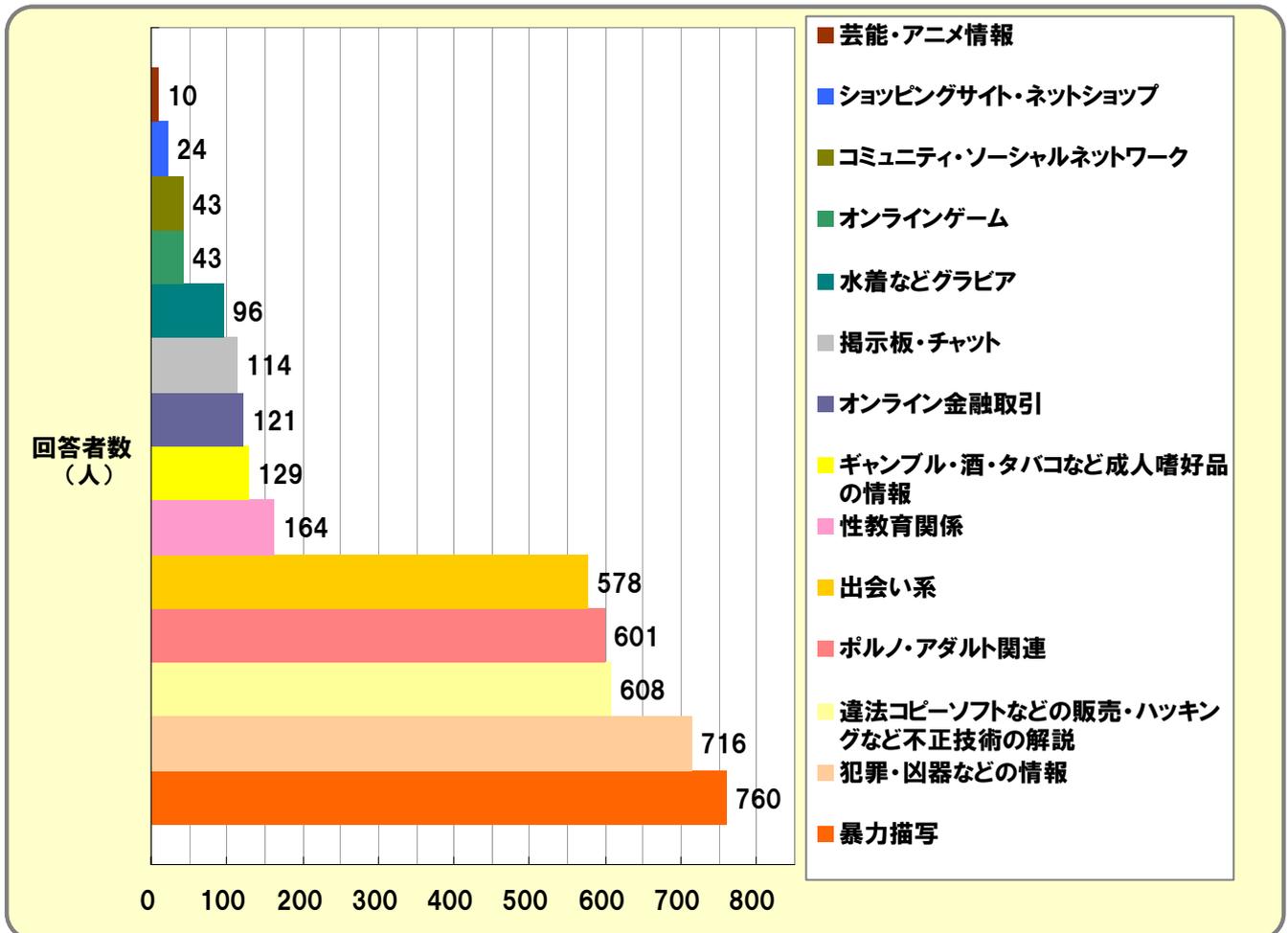


3. インターネット利用に関する不安・危険要素（5）

3- (5) 「インターネットサイトで好ましくない、または危険だと思われるものを全てお選びください。」

複数の選択肢の中で、好ましくない、または危険だという回答の最上位に挙がったのは、「暴力描写」です。また、犯罪や凶器に関する情報についての回答も多く、インターネット上の情報を基にした犯罪の増加についても危機感が増大している様子がうかがえます。

- 複数回答
- 全員への質問(有効回答927人)

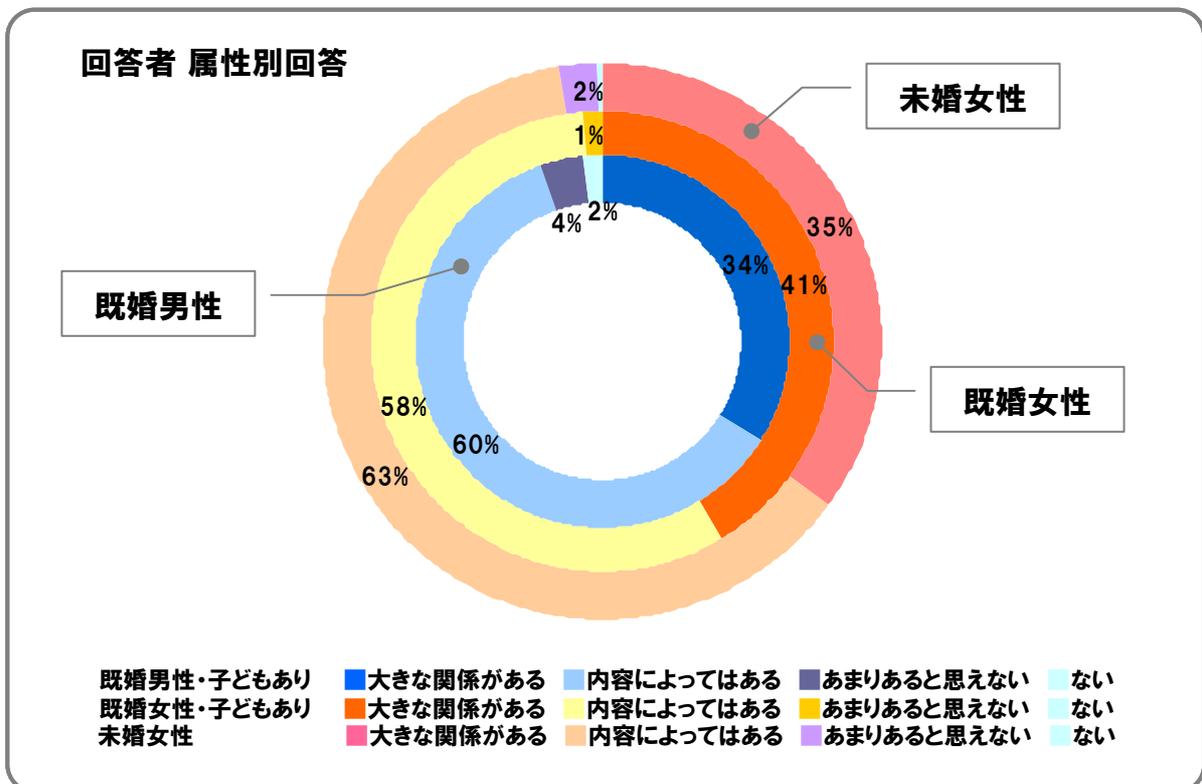
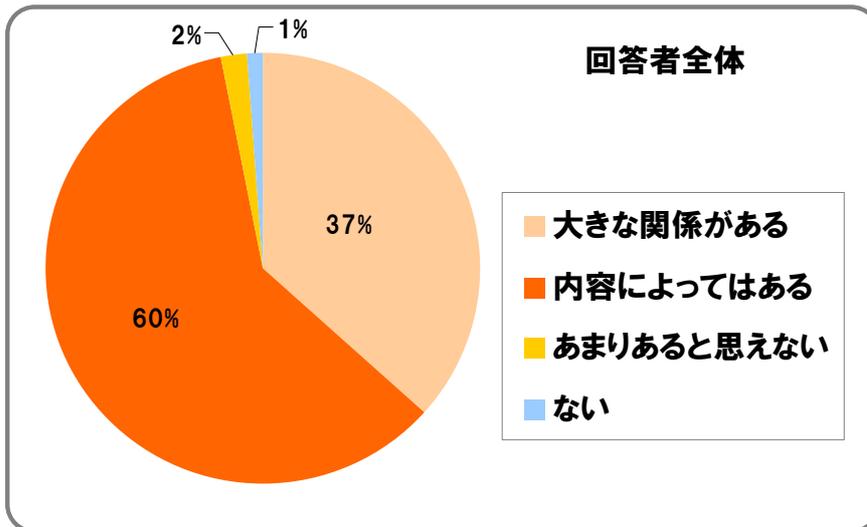


3. インターネット利用に関する不安・危険要素（6）

3-（6）『様々な犯罪』と、アダルトサイトや犯罪サイトなどの『インターネットの違法・有害サイト』とは、関係があると思いますか？

回答者の97%が、「大きな関係がある」または「内容によってはある」と回答しています。インターネット上の情報の中には危険な情報が含まれているということの認識が深まっていることを示しています。

- 複数回答
- 全員への質問(有効回答927人)
- 既婚・子どもありの女性の属性のみで見た場合は、97%が「大きな関係がある」、「内容によってはある」と回答



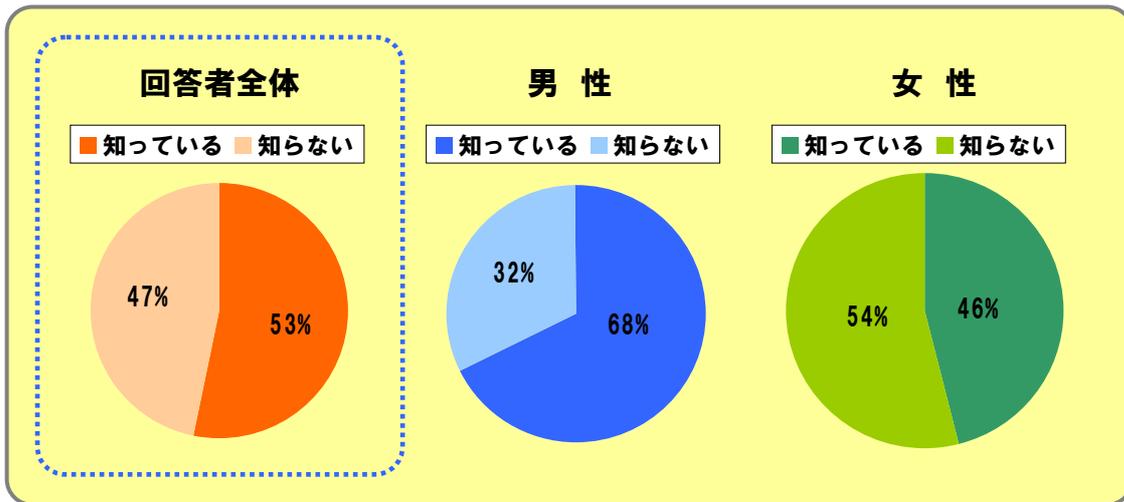
4. フィルタリング認知および利用状況について（1）

4-（1）「好ましくないサイトに不用意にアクセスしないようにするソフトがあることはご存じですか？」

フィルタリングソフトという名前は知らなくても、対策用のソフトウェアがあることについては、全体の53%が知っていると回答しています。男性のほうが、女性よりも知っている比率が高いという結果になりました（男性では68%、女性では46%）。

この設問では、「フィルタリング」という名称を用いず、「好ましくないサイトにアクセスしないようにするソフト」という抽象的な表現で回答を導き出しました。そうすることによって、「フィルタリング」という言葉の前の段階で認識を把握することができました。

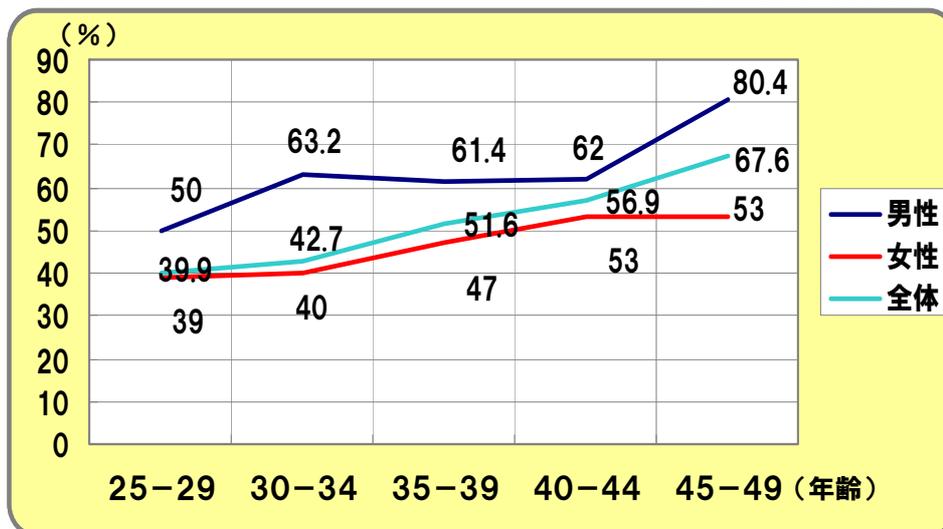
- 全員への質問(有効回答927人)
- 既婚男性・子どもありの回答者の方が「知っている」と回答する比率が高い



また、世代的に男女問わず年齢の上昇に比例してソフトの存在についての認識が高まる傾向がありました。

この傾向は、3-(5)の設問で、年齢が高くなるほど危険要素を数多く選択する傾向とも重なります。これは、年齢が高くなるほど危機管理に敏感になっていることを表していると考えられます。

「好ましくないサイトにアクセスしないようにするソフト」の年齢別認識状況



4. フィルタリングの認知および利用状況について (2) (3)

4- (2) 「「フィルタリングソフト」をご存知ですか？」

4- (1)の設問とは異なり、今度は「フィルタリングソフト」という名前で質問しています。これに対し、全体の36.7%が「名前は聞いたことがある」と回答。「内容まで理解している」のは19.4%となりました。前述の質問との回答状況が異なることが特徴です。

また、女性全体の傾向として「知らない」という回答者が多いことが明らかになっています。

- 全員への質問(有効回答927人)
- 既婚男性・子どもありの回答者のうち、33.3%は、フィルタリングソフトの内容を理解
- 女性の回答者の半数以上は、フィルタリングソフトについて知らない

		単位	計	内容まで知っている	名前は聞いたことがある程度	知らない	
全体		人	927	180	340	407	知っている 比率が高い
		%	100.0	19.4	36.7	43.9	
内訳	既婚男性 (子どもあり)	人	309	103	127	79	知らない 比率が高い
		%	100.0	33.3	41.1	25.6	
	既婚女性 (子どもあり)	人	309	35	108	166	
		%	100.0	11.3	35.0	53.7	
	未婚女性	人	309	42	105	162	
		%	100.0	13.6	34.0	52.4	

4- (3) 「ご自宅でフィルタリングソフトをご利用になっていますか？」

フィルタリングソフト(メーカーは問わない)の利用経験について質問しています。約80%の方が全ての属性において「利用したことはない」と答えており、「利用している」と答えた人は全体で4.6%という結果となっています。具体的な不安や危険を感じながらも、実際の利用には至っていないという現状が浮かび上がります。

- 全員への質問(有効回答923人)
- フィルタリングを利用しているのは、全体の4.6% 利用者は未だ少ない

		単位	計	利用している	利用したことはあるが、今は利用していない	利用したことはない	分からない
全体		人	923	42	29	733	119
		%	100.0	4.6	3.1	79.4	12.9
内訳	既婚男性 (子どもあり)	人	308	23	17	253	15
		%	100.0	7.5	5.5	82.1	4.9
	既婚女性 (子どもあり)	人	309	11	6	233	59
		%	100.0	3.6	1.9	75.4	19.1
	未婚女性	人	306	8	6	247	45
		%	100.0	2.6	2.0	80.7	14.7